

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800324		
法人名	社会福祉法人 天心会		
事業所名	グループホームすこやか2		
所在地	福島県喜多方市松山町村松字北原3656-1		
自己評価作成日	平成21年7月15日	評価結果市町村受理日	平成22年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者様の優しい笑顔や心遣い</li> <li>○ センター方式のケアプランを取り入れ、利用者一人ひとりがより良い生活を送れるよう支援している。</li> <li>○ 利用者様にできること、得意なことを行って頂き、自信や自尊心を持って生活できるよう関わっている。</li> <li>○ 月一回の勉強会を行い知識を深めたり、より良いホームになる様、活発に意見交換している。</li> <li>○ 認知症ケアのあるべき姿や介護に対する考え方を学んでいる。</li> <li>○ ハード面が施設的であるが、ソフト面では互いに話し合い、家族的であるような雰囲気作りに努めている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①地域密着型サービス事業所独自の理念をつくりあげ掲示している。 ②毎月一回グループホーム勉強会、毎日の申し送り後カンファレンスを行いケース対応を検討し実践している。職員全員が自由に自分の意見をいえるような雰囲気作りをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事などで、いつでも気軽に立ち寄り寄って頂きたいことを事あるごとにお伝えしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム利用者様の生活が主体となっており地域貢献に到っていない。話し合い、取り組みしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	①運営推進会議(平成18年10月から)2~3ヶ月に1度開催している。 ②運営推進会議にてでた報告、意見等を参考に、より良いサービスが提供できるように取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外での活動は行っていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を持ち学ぶ機会を得て、前向きな取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①権利擁護、成年後見制度について各自知っている。学ぶ事は自主性に委ねている。 ②制度のあることは理解し知っているが、必要な利用者様がいなかったため活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い個々の立場にたって解かり難く、不安が生じていないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・要望ノートを作り、利用者様から頂いた意見、苦情について検討し対策をとっている。速やかに対処し運営に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①運営に関すること、利用者様状況、サービスの実情に関して必要時職員の意見の聞き取りがされている。 ②勉強会、カンファレンス、その都度意見や提案を聞く機会があり反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①職員のストレス軽減に向けた取り組みは行っていない。②目標評価制度で自分なりの目標を掲げ、目標に向かって努力している。それを報告している。③職員個々の努力や実績などがきちんと把握されているのか不明。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①研修の機会を作り、レベルアップしていけるように取り組んでいる。 ②各委員会での勉強会は、本人の休みや時間外を利用して出席している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加し交流する機会は持っているが、相互訪問は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まったら、面談を数回実施して、顔馴染みになり、不安や要望を聴きやすい雰囲気作りをする。信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まったら、数回面談を行い、聴きやすい雰囲気作りをし、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①入居申し込み時時間をかけじっくり話を聴き、必要としている支援を見極めている。 ②必要があれば他のサービスへもつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念、目標にも掲げられているように人生の先輩としての敬意を持ちながら「共に楽しみ、笑い、また哀しんだりしている」自然な形で「共に生きる」姿勢に両者になりつつある。支え合いながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力して頂きながら共に歩んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい所、会いたい人に対しての話しが聞かれた時は、ご家族の了解を得て、希望にそうよう対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①利用者様が出来ること、出来ないことを知らせることで助け合い支え合う関係が築けるように支援している。 ②生活の中で利用者様間で解決できることもあり、横の繋がりが強くなっている。利用者様の主体性を大切に職員は黒子のような存在となり見守っている。③孤立しないように、利用者様間の意思疎通を図るお手伝いや、間に入り良好な関係となれる手助けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①サービス利用の間に培われた関係性を大切に退去後も相談や支援に応じている。 ②気軽に何時でも来て頂きたいことをお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①利用者様がその人らしく暮らし続ける支援に向けて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に添えるよう努めている。 ②生活の何気ない会話から、その人の考えや希望を聞き取り、ケアプランに活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を得ながら情報収集に努めている。 アセスメントや関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①センター方式を活用し細部まで把握に努めている。 ②個々の状況を日々観察怠らず、職員同士の共有または申し送りにより把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①「生きがい」「楽しみ」が反映されるように努めている。本人、家族の意見を頂く機会はあるもののアイデアを出し合うまでは行っていない。 ②状態変化した際には、その都度話し合い見直しを行って、新たな介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①個別記録に記載している。 ②より良い介護計画が作成できるよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ取り組んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①公民館、ホテルなどを利用して、行事の場として活用している。②行事にはボランティア、避難訓練には消防署の協力を得ている。③絵画展見学④週1回掃除のボランティアの方に協力頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	‘納得が得られた’かかりつけ医であるかは不明であるが、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置されている。管理者も看護師である。すぐに相談が出来て心強く、安心して対応ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心身の大きなダメージ、ストレスや負担を軽減するため家族等と相談しながら医療機関に対して話し合いの機会を設け、看護師(管理者)が早期退院につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①看取りの指針ができています。職員で話し合い方針を共有している。②本人がどのように最期を迎えたいと思っていたか家族より情報を得ている。③出来ること、出来ないことの見極めは充分ではない。ターミナルケアの勉強したこと、今まで2例の経験を活かし取り組んでいる。④3例目のケースがすすんでいる。職員の気持ちをひとつにして、チームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアル化されている。資料を基に知識を深めることに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	他部署の協力を得て、様々なパターンを想定して月に1回の避難訓練を日中実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①グループホームならではの温かく親しみのある会話は大切である。常に利用者様一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけ、対応をしないように心がけている。②尊厳を守る対応を心がけている。③職員間で、お互いのケアや対応について気づいたことは		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様は自由に豊かに、自分なりの生活を送っていたわけですから、一人ひとり違った対応、働きかけ、説明を行い引き出す支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①一人ひとりの生活のリズムや、その日に利用者様がしたいと思っていることを大切にしている。できる限り一人ひとりのペースを大切にしよう支援している。②職員数や業務の内容により、利用者様優先ではなくなってしまう時がある。(それ以外は希望にそって支援してい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①利用者様一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用支援している。(家族と相談しながら店を選んで家族、店の理解を得ている。)②好きな服を着て頂いている。③その人が出来ていたことを支援する形で、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一人ひとりが出来ることを行ない、一緒に準備、食事、片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①うがい、歯磨き、義歯の手入れを行ない口腔内の清潔保持に努めている。②自分で行なえる方については、その方にお任せになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①排泄表にて排泄パターン確認②高齢化、重度化に伴い紙オムツ紙パンツ使用者増えている。③失禁の際は自室へさり気なく誘導し自信を失わない対応をしている。④排泄の失敗をなくす対策ではなく、本人の希望や気持ち生活を最重視した支援に取り組んでいる。⑤確認の際は羞恥心プライバシーを損ねないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①排泄表活用 ②水分摂取については、働きかけ行なっている。 ③運動については、冬場は運動不足になりがちである。一人ひとりのペースに合わせた運動を勧め身体を動かす働きかけは、取り組んでいない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①入浴時間帯は勤務の関係でおおよそ決まっている。 ②入浴希望する方と、あまり入らない方にアンバランスな面がでている。希望に合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んでいただけるような個別対応(希望時は添い寝)、声掛けを行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①受診ノート、処方薬の説明書を読み理解に努めている。②誤薬、飲み忘れることがないよう支援している。 ③誤薬、飲み忘れを防ぐため薬のダブルチェックを行い、薬に対する意識を高める対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて得意なこと、好きなことを行なって頂き、自信や楽しみにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば、出来る限り希望にそよう支援している。畑仕事を得意とする方は、ほぼ毎日作業している。(冬期以外)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①ホーム預かりの小遣い以外に、希望者には家族と相談し(協力・理解を得ている。)利用者様自己管理金のお金を持って頂くように支援するなど一人ひとりの希望や力量にあわせて支援している。②買物の楽しさや満足感を得て頂けるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、好きな時に電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①のれん、カーテンなどで空間を仕切るなど工夫している。 ②観葉植物や花を飾り、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。 ③2階なため、窓からの景色がとても良く季節の移り変わりを実感できる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①構造上縦長であり、一人になったり分散して過ごせる居場所は確保しにくい。限られたスペースではあるが、ソファや椅子、テーブルを置き落ち着くコーナー作りの工夫をしている。 ②好みの本を何冊か置き、読書できるようなスペースを設けるなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	①使い慣れた家具や品物、思い出の品物置いている。(居室が狭いので生活に必要な物など持ち込み量は限られてしまっている。) ②泊まりの部屋(家族用)はない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①居室に手すりや移動バー設置している。 ②著しい見当識障害のある方がおらず積極的な工夫は行っていない。		